

# OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



## プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 小田 侑哉  
所属 (School) 工学研究科 物質・化学系専攻 応用化学分野  
学年 (Grade) 博士前期課程 2年  
留学先 (Name of overseas institution) CSIR-NIIST, IISER-TVM  
留学期間 (study abroad period) 2017年9月19日-2017年9月24日  
記入日 (Date) 9月29日

## 留学レポート Study Abroad Report

私は、2017年9月20日-22日の間、インドの Kerala 州の Thiruvananthapuram にある研究機関の CSIR-NIIST で開催された学会 (8<sup>th</sup> East Asia Symposium on Functional Dyes and Advanced Materials) に参加してきました。初の国際学会、初の英語でのポスター発表、初のインドということもあり、インドに到着する前からかなり緊張していました。学会前日の夜にインドに到着し、明日の発表の練習を行いながら、眠りにつきました。

### 1日目

午後からポスター発表がありました。初めの方は私自身が英語が得意ではないということと、緊張していることもあり、なかなか自分の方から話しかけることができませんでした。しかし、一度話しかけポスターの説明を行うと、少しずつ緊張が和らいできました。また、インドの方はとても親切で、英語を聞き取ることが出来なくても、何回も伝わるまで、また理解しやすい言葉に置き換えながら話してくれました。そのおかげで、リスニングが苦手である私でさえも、なんとかポスター発表を終えることが出来ました。1日目に学んだことは、外国の方は英語ができる、できないはあまり気にしていないということです。初め私は英語がうまく話せないのに、話しかけたら迷惑になるのではと考えていましたが、そんなことは全くありませんでした。ですので、臆することなく積極的に話しかければ、英語を話すことに対する考え方が変わってくると思います。

### 2日目

昼間は講演の早口の英語を聞き取るのに悪戦苦闘しながら、なんとか頑張りました。夜には周辺の有名なビーチでインドの伝統文化を鑑賞しながらの学会の食事会がありました。その食事会での後悔が一つあります。それは、あまりインドの方との交流を深めること出来なかったことです。私は一緒に学会に参加していた日本人と行動していました。その結果、インドにせっかくいるのにも関わらず、常に日本語を話していました。母国語である日本語はストレス無く話すことができますが、やはりもっと積極的にインドの方との話しておけば良かったなど後悔しています。日本人との会話はいつでもできますので、私と同じ様な後悔をしないためにも留学などで海外に行った際には、外国の方と積極的に交流を行って欲しいと思います。

### 3日目

学会最終日にはひとつ私にとって大変喜ばしい大きなサプライズがありました。光栄なことに「ACS Omega BEST POSTER AWARDS」というポスター賞を獲得することができました。この様な賞を頂いたのは初めての経験でしたので、本当に嬉しかったです。学会終了後には、以前私の研究室に留学しに来ていたインド人の家でご飯をご馳走してもらいました。床に直接お皿を置いて食べたり、下に住んでいる30歳過ぎのおじさんが飲み会に参加して来たりして、文化の違いを大いに感じました。また、インド人の優しさ、フレンドリーな性格などの文化の違いとは異なる人格の違いも大いに感じる事ができました。この様な文化の違い、性格の違いを体験できるのも留学の醍醐味の一つだと思います。



ポスター賞受賞時の写真

#### 4日目

学会は22日に終了しましたが、翌日は Prof. K. George Thomas の紹介で Thiruvananthapuram にある IISER-TVM に行ってきました。午前中はその研究機関で開催されていたシンポジウムに参加させていただきました。シンポジウムでは自分の専門分野外の研究の発表を英語で聞くことができ、大変貴重な体験をさせていただきました。また、自分の研究が他の分野に応用することができるかもしれない可能性を感じる事ができました。あと一つ感じたのは、インドの学生は積極的に質問を行うということです。日本の学会やシンポジウムでは質問を行うのは先生ばかりで、学生はあまりしません。このようなことから日本とインドの性格の差を感じました。お昼からは IISER-TVM の施設内の見学を行いました。インドの研究機関は研究設備にとってもなくお金を使っているのので、私が今までに見たことのない装置がたくさんあり、まるで博物館に来たような感じでした。また、敷地内に病院や救急車があり、日本との違いを大いに感じる事ができました。施設の見学が終わったあとは、IISER-TVM の学生と研究内容についてのディスカッションを行いました。彼らの専門分野外の研究であることや、私の英語があまり上手ではないのにも関わらず、彼らは私の研究内容を理解してくれました。やはりインドの学生は賢いなと感じました。私の発表の後は、インドの学生に研究発表を行っていただきました。研究発表の最中もとても自分の研究内容に誇りを持っており、研究が好きであるということが伝わってきました。

今回のインドでの国際学会での発表および研究施設の見学、学生とのディスカッションを行って私が感じたことは二つあります。一つ目は伝えたいことが伝えられないもどかしさです。今回のインドでは何度も伝えられないもどかしさを感じました。ジェスチャーなどでもコミュニケーションを取ることも可能ですが、会話はもっとも大きなコミュニケーションツールですので、お互いをよく知り仲良くなるためには欠かせません。今回の体験を機に英語を本気で頑張ろうと思いました。二つ目は外国の方は日本人が英語ができるかできないかをそこまで気にしていないということです。一つ目に感じたことと矛盾しているように聞こえますが、外国の方は日本人が考えているよりも英語ができないことを気にしていないと思います。私が相手の伝えたいことを聞き取ることが出来なくても、嫌な顔一つせず何度も理解するまで話してくれたり、私の下手くそな英語にも真剣に耳を傾けてくれます。会話を行うために英語力は欠かせませんが、それよりも重要なのは積極性や当たって砕けるの精神だと思います。

今回のインドでは、今までに僕が体験したことのないたくさんの貴重な経験をさせていただきました。このような経験はネットを通しては分からない、実際に自分が日本を出なければ得ることのできない経験だと思います。自分が知らない土地に行くことへの不安や、英語をちゃんと喋ることができるのかという不安など、たくさんの不安があるとは思いますが、自分自身を大きく変える機会を与えてくれる留学に積極的に参加してもらいたいと思います。



IISER-TVM の学生との写真